

練習問題 ① 文学的文章(3)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 久助君は、四年から五年になるとき、（注）学術優等品行方正のほうびをもらってきた。

② はじめて久助君がほうびをもらったので、電気会社の集金人であるおとうさんは、ひじょうにいきごんで、それから、久助君が学校からかえったらすぐ、一時間勉強することに規則をきめてしまった。

③ 久助君は①の規則をよるこばなかった。一時間たつて、家のそとにでてみても、近所に友だちが遊んでいないことが多いので、そのたびに友だちをさがしてあるかねばならなかったからである。

④ 秋のかりとはれた午後のこと、久助君は柱時計が三時半をしめすと、「ああできた」と算術（算数）の教科書をぱたつとどじ、つくえの前をたちあがった。

⑤ そとにでると、まばゆいように明るい。だが、やれやれ、きょうもなかまたちの声はきこえない。久助君はお宮の森のほうへ耳をすました。

⑥ 森は久助君のところから三町（一町は約一〇九メートル）ははなれていたが、久助君はそこに友だちが遊んでいるかどうかを、耳で知ることができるのだった。だが、きょうは、森はしんとしていて、うまいへんじをし

ない。つぎに久助君は、はんたいのほうの夜学校のあた

りに向かって、耳をすました。夜学校も三町ばかりへだたっている。だが、これもよいあいずを送らない。

⑦ しかたがないので久助君は、かれらのあつまっているような場所をさがしてまわることにした。もうこんなことが、なんどあったかしれない。こんなことは、ほんといやだ。

⑧ さいしよ久助君は、宝蔵倉の前行ってみた。たぶんの期待をもって。そこでよくみんなはキャッチボールをするから。しかしきてみると、だれもない。そのはずだ、豆が庭いっぱいにほしてある。これじやなにもして遊べない。

⑨ まさか医者の家へなんかあつまっていることもあるまいが、ともかくのぞいてみようと思って、黄色い葉のまじった豆ばたけのあいだを、徳一君の家のほうへやっ

ていった。そのとちゅう、ほし草のつみあげてあるそばで、兵太郎君にひょっくりであつたのである。

⑩ 兵太郎君はみんなから、ほら兵とあだなをつけられていたが、まったくそうだった。こんなうなぎをつかんだといって、両方の手の指で天秤棒ほどの太さをしてみせるので、ほんとうかと思つていつてみると、筆ぐらい

- のめそきんが、井戸^{いど}ばたの黒いかめのそこにしずんでい
 るというふうである。またみんなが軍艦^{ぐんかん}や飛行機^{ひこうき}の話を
 していると、おれが武豊^{たけとよ}で見たのは、と行って、べらば
 うなことをいいたすのだった。また兵太郎はおんちで、
 君^{きみ}が代^よもろくろくうたえなかったが、いっこうそんなこ
 とは気にせず、みんなが声をそろえて軍艦マーチをやっ
 ていると、すぐ唱和^{しょうわ}するので、みんなは調子がへんにな
 って、やめてしまうのであった。だが、わる気はないの
 で、みんなにきらわれてはいない。ときどき鼻をすこし
 右にまげるようにして、きゅつと音をたててすいあげる
 のと、わらうとき床^{ゆか}の上だろうが、道の上だろうが、と
 ころきらわず、下にころがるくせがあった。体操^{たいそう}のとき、
 久助君のすぐ前なので、久助君はかれの頭のうしろ側^{がわ}に
 いくつ、どんな形の、はげがあるかをよく知っている。
 〔II〕兵太郎君は、てぶらで、へんにうかぬ顔をしていた。
 「みんな、どこにいったか知らんかア」
 と久助君がきいた。
 「知らんげや」
 と兵太郎君がこたえた。そんなことなんか、どうでもい
 いという顔をしている。丸太棒^{まるたぼう}のはしを、大工^{だいく}さんのの
 みで、ちよつちよとほってできたようなその顔を、^④久助
 君はまぢかにつくづくと見た。
 「徳一^{とくいち}がれにいやひんかア」
 と、久助君がまたきいた。

65

60

45

「いやひんだらア」
 と、兵太郎君がこたえた。赤とんぼが兵太郎君のうしろ
 をとおって行って、ほし草にとまった。そのはねが陽^ひの
 光をうけて、きらりと光った。

(新美南吉『久助君の話』)

注1 品行方正^{じやうへい}ふだんのたいどやおこないがまじめできちんとして
 いること。

注2 めそきん^{じやう}胴^{どう}の直径^{ちやうけい}五^ご十^{じゅう}ミリの細いうなぎ。

注3 武豊^{たけとよ}地名。

注4 唱和^{しょうわ}Ⅱ合唱。

注5 知らんげやⅡ知らないよ。

注6 徳一^{とくいち}がれにいやひんかアⅡ徳一^{とくいち}のうちにいないかなア。

注7 いやひんだらアⅡいないだろう。

問一

次の文章は、どの段落^{だんらく}とどの段落^{だんらく}の間に入りますか。段落の番号で答えなさい。

そのつぎに久助君は、北のお寺へいった。ほんと
 うはあまり気がすすまなかったのだ。というのは、
 そこは別の通学団^{だん}の遊び場だったから。しかしこん
 なよい天気の日^ひにひとり遊^{あそ}ぶよりはましだったの
 で、いったのである。が、そこにも、たけの高いは
 げいとうが五、六本、かっ秋^{あき}日にはえて鐘撞堂^{かねつぎどう}の
 下にたっているばかりで、犬の子一^{ひと}ぴきいなかった。

() 段落と () 段落の間

問二

——線①「この規則」というのは、だれがきめた
どんな規則ですか。次の□にあてはまることばを
文中から書きぬきなさい。

がきめた、

という規則

問三

——線②「うまいへんじをしない」とは、どうい
うことですか。(1) 5段落の中から書きぬきなさい。
また、(2)同じ意味のことばを別の言い方で表して
いるところを6段落の中から書きぬきなさい。

(1) _____

(2) _____

問四

久助君は、友だちをさがしにどんな場所へ行きま
したか。よいものを次のうちから選^{えら}び、記号で答え
なさい。

- ア お宮の森・夜学校・宝蔵倉・徳一君の家
イ お宮の森・夜学校・宝蔵倉・北のお寺
ウ 宝蔵倉・北のお寺
エ 宝蔵倉・北のお寺・徳一君の家 ()

問五

——線③「兵太郎君はみんなから、ほら兵とあだ
なをつけられていた」とありますが、それはなぜで
すか。よいものを次のうちから選^{えら}び、記号で答えな
さい。

ア 太いうなぎを、つかんでもいないのにつかんだ

と言ったり、らんぼうな話し方をしたりするから

イ 太いうなぎを、つかんでもいないのにつかんだ

と言ったり、見たものをじまんだりするから

ウ 太いうなぎを、つかんでもいないのにつかんだ

と言ったり、ひとの話のじゃまをしたりするから

エ 太いうなぎを、つかんでもいないのにつかんだ

と言ったり、見たこともないものを見たと言った

りするから。 ()

問六

——線④「久助君はまだかにつくづくと見た」と
ありますが、このときの久助君の気持ちとしてよい
ものを次のうちから選^{えら}び、記号で答えなさい。

ア なにを聞いても答えてくれそうにない兵太郎君

に対して、少しおこっている。

イ なにを考えているのかわからない兵太郎君の様

子を、ふしぎに思っている。

ウ なにもわからない様子の兵太郎君を、少し軽べ

つしている。

エ 兵太郎君に聞くんじゃなかったと、後^{こう}かいして
いる。 ()

言語事項(10)

類義語と対義語

類義語…意味のにていることを類義語といいます。

〈二字熟語の類義語〉

- ・一字が同じで、一字がちがうもの
勝負⇕勝敗 自然⇕天然

- ・二字ともちがうもの
進歩⇕上達 完全⇕無欠

〈その他の類義語〉

- 願い⇕望み 残る⇕あまる
- 不用意⇕不注意 平等⇕無差別

対義語…意味が反対のことをばを対義語といいます。

〈二字熟語の対義語〉

- ・一字が同じで、一字がちがうもの
無害⇕有害 不便⇕便利

- ・二字ともちがうもの
生産⇕消費 成功⇕失敗

〈その他の対義語〉

- 積極的⇕消極的 特定⇕不特定
- 欠ける⇕満ちる 浅い⇕深い
- 利⇕害 信⇕不信

1 類義語の組み合わせとなるように、□にあてはまる漢

字を書きなさい。

(1) 海外⇕外

(3) 本人⇕

人

(5) 心配⇕不

(7) 長所⇕

点

(2) 本式⇕

式

(4) 真実⇕

実

(6) 日中⇕

間

(8) 身内⇕

類

2 対義語の組み合わせとなるように、□にあてはまる漢

字を書きなさい。

(1) 不満⇕満

(3) 自動⇕

動

(5) 勝利⇕敗

(7) 戦争⇕

和

(2) 共感⇕

感

(4) 消火⇕

火

(6) 本番⇕

習

(8) 全体⇕部